

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年11月7日 (2013.11.7)

【公表番号】特表2011-501675(P2011-501675A)

【公表日】平成23年1月13日 (2011.1.13)

【年通号数】公開・登録公報2011-002

【出願番号】特願2010-530341(P2010-530341)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/52 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 K 14/52 Z N A

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 1 0 1

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 35/00

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年9月19日 (2013.9.19)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

S D F - 1 突然変異体タンパク質であって、該 S D F - 1 タンパク質が、構造維持法で、アミノ酸位置 29 および 39 にある少なくとも 2 つの非塩基性アミノ酸の、少なくとも 2 つの塩基性及び / 又は電子供与性アミノ酸での置換によって改質され、かつ、野生型 S D F - 1 タンパク質の N 末端領域の最初の 1 ~ 10 のアミノ酸の少なくとも 1 つのアミノ酸が、少なくとも 1 つのアミノ酸の付加、欠失及び / 又は置換によって改質されることを特徴とする、野生型 S D F - 1 タンパク質と比較して増加させた G A G 結合アフィニティー及び低減させた C X C R 4 活性を有する S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 2】

構造維持法での改質が、遠紫外線 C D 分光法によって測定される、30 % 未満の野生型の S D F - 1 構造からの改質された構造のずれであることを特徴とする、請求項 1 に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 3】

前記の塩基性アミノ酸が、A r g、L y s、H i s からなる群から選択されることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 4】

前記の電子供与性アミノ酸が、A s n 又は G l n からなる群から選択されることを特徴とする、請求項 1 又は 2 に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 5】

前記の S D F - 1 タンパク質の N 末端領域が、8 つのアミノ酸の切断によって改質されることを特徴とする、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 6】

前記の S D F - 1 タンパク質の N 末端領域が、最初の 2 つのアミノ酸の置換及び / 又は欠失によって改質されることを特徴とする、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 7】

前記の最初の 2 つの N 末端のアミノ酸が、リジン、アルギニン、プロリン、又はグリシンからなる群から選択されるアミノ酸によって置換されることを特徴とする、請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 8】

N 末端 M e t を含有することを特徴とする、請求項 1 から 7 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 9】

前記の改質された S D F - 1 分子のアミノ酸配列が、一般式

$$(M)_n(X1)_m(X2)_pVSLSYRCPCRFFESHVARANVKHLKI(X3)NTPNCALQI(X4)ARLKNNNRQVCIDPKLKWIQEYLEKALNK(GRREEKVGKKEKIGKKKRQKKRKA AQKRKN)。$$

[式中、X 1 は、K 又は R 残基であり、

X 2 は、P 又は G 残基であり、

X 3 は、R、K または H からなる群から選択され、

X 4 は、R、K、H、N 又は Q 残基からなる群から選択され、かつ

n 及び / 又は m 及び / 又は p 及び / 又は o は、0 又は 1 であってよく、かつ

少なくとも 2 つの位置 X 1、X 2、X 3 又は X 4 が改質される] によって記載されることを特徴とする、S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 10】

配列番号 6 のアミノ酸配列からなることを特徴とする、S D F - 1 突然変異体タンパク質。

【請求項 11】

請求項 1 から 10 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体 タンパク質に関してコードすることを特徴とする、単離された D N A 分子。

【請求項 12】

請求項 11 に記載の単離された D N A 分子を含有することを特徴とするベクター。

【請求項 13】

請求項 12 に記載のベクターで形質移入させることを特徴とする、組換え細胞。

【請求項 14】

請求項 1 から 10 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体 タンパク質、又は請求項 11 に記載の D N A 分子、又は請求項 12 に記載のベクター及び製剤学的に認容性のキャリアーを含有することを特徴とする、医薬品組成物。

【請求項 15】

請求項 1 から 10 までのいずれか 1 項に記載の S D F - 1 突然変異体タンパク質、又は請求項 11 に記載の D N A 分子、又は請求項 12 に記載のベクターの、癌の治療のための薬剤を製造するための方法における使用。

【請求項 16】

腫瘍の成長及び広がり過程を、少なくとも部分的に阻害することを特徴とする、請求項 15 に記載の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

30%未満、有利には20%未満の野生型構造からの遠紫外線CD分光法によって測定された改質された構造のずれは、本発明による構造維持改質として定義される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0027

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0027】

本発明によって、SDF-1突然変異体タンパク質は、構造維持法における改質を含むことができ、その際、野生型SDF-1構造からの遠紫外線CD分光法による測定として改質された構造のずれは、30%未満、有利には20%未満、有利には10%未満である。